文部科学省
国立教育政策研究所
National Institute for Educational Policy Research

※最新版を、http://www.nier.go.jp/shido/leaf/leaf06.pdf から、直接にダウンロードできます。

生徒指導リーフ

Leaf over the theory and practice on Seitoshidou!

特別活動と生徒指導

Leaf.6

生徒指導・進路指導研究センター

生徒指導にとって重要な教育活動の場

特別活動の主たる目標は、望ましい集団活動を通して、自主的、実践的な態度を育成することや、自己の生き方についての考えや自覚を深め、自己を生かす能力を養うこと――こうした目標を持つ特別活動の取組は、児童生徒の健全育成を目指す生徒指導の実践そのものと言うことができます。

特別活動の指導において重視したい指導・支援には、次のようなものがあります。

①児童生徒に「自己存在感」を与える
②教師と児童生徒の信頼関係及び児童生徒相互の「共感的な人間関係」を育てる
③「自己決定」の場や機会をより多く用意し、児童生徒が自己実現の喜びを味わうことができるようにする

上記①～③の「　」でくくられた言葉は、生徒指導を行う際に強調されてきた三つのポイントに他なりません。こうしたことから、特別活動は教育課程において生徒指導の中核的な役割を果たしていると言えます。

◆特別活動は、学級・ホームルームや学校における集団での生活実践を通して、児童生徒の個性を伸長するとともに自治的な能力や社会性を育てる教育活動。

◆児童生徒が自発的かつ主体的に自己を成長させていく過程を支援すること、集団や社会の一員として自己実現を図っていく社会人へと育つよう促すことが大切。

特別活動において生徒指導の面から重視したい取組例

学校生活の基礎的な集団である「学級」や「ホームルーム」から、学年や全校の児童生徒が参加する大規模なものまでの、様々な集団活動において生徒指導の充実を図っていくために、次のような取組を大切にしましょう。

①全ての児童生徒に「自己存在感」を与える取組として

○一人一人の児童生徒が、学級・ホームルームのよりよい生活づくりに貢献できるよう、係活動や学級・ホームルーム組織の中で、自分のよさや得意なことを生かして活動できるようにする取組（学級活動・ホームルーム活動）

○運動会（体育祭）などの「学校行事への協力」の活動の中で、児童生徒が役割を分担し、それぞれの個性をよりよく生かしたり、発揮したりして活躍できるようにする取組（児童会・生徒会活動）

○文化的な活動やボランティア活動などに、学校や地域の一員として主体的に参加し、自分らしさを発揮して貢献できるようにする取組（学校行事）　など

②　全ての児童生徒相互の「共感的な人間関係」を育てる取組として

○学級・ホームルームとして取り組むことや自分が取り組みたい目標や内容などを決める際、また実際の活動場面やその振り返りの際に、互いのよさを認め合い相互の信頼を高め合えるようにする取組（学級活動・ホームルーム活動）
○児童会・生徒会が主催する異年齢交流活動などにおいて、上級生が下級生のことを思いやり、下級生が上級生を尊敬しながら集会活動などを楽しめるようにする取組（児童会・生徒会活動）
○遠足や修学旅行等のグループ活動で、考え方や性別などの違いを超えて、互いに協力できるようにする取組（学校行事）　　など

③「自己決定」の場や機会を設け、全ての児童生徒に自己実現の喜びを味わわせる取組として

○学校や家庭でのよりよい生活や学習の在り方について、その方法や内容などのアイデアについて情報交換をし合い、自分に合った具体的な実践課題を決め、努力して改善が図られるようにする取組（学級活動・ホームルーム活動）
○上級生によるクラブの紹介や見学などをもとに、自分に合っていると思ったり挑戦してみたいと思ったりするクラブを決め、目標をもって参画できるようにする取組（クラブ活動）
○集団宿泊活動などに学級・ホームルームや自己の目標をもって参加し、達成感を味わえるようにする取組 (学校行事)　　など

イラスト：わたなべふみ

※上記の取組例の中には、生徒指導を行う際に強調される三つのポイントのうち複数のポイントに該当するものもあります。

特別活動の特質である「望ましい集団活動」において、
①一人一人が役割を分担し協力して取り組んだり、一人一人の自発的な思いや願いを大切にして取り組んだりすることなどにより、「自己存在感」が与えられます
②協力し助け合って取り組んだり、互いのよさを認め合って取り組んだりすることなどにより、児童生徒相互の「共感的な人間関係」が育ちます
③自己の生活改善や進路などに関する「自己決定」の場や機会を多く設けることにより、児童生徒に自己実現の喜びを味わわせることができます

◆児童生徒一人一人のよさや可能性が生かされ、個性の伸長が図られるようにする。

◆よりよい人間関係を築く力や集団（社会）の一員としての望ましい態度が育まれるようにする。

★ワンポイント・アドバイス★

自主的、実践的な態度を育成するための場づくりが鍵

特別活動は、学級・ホームルームなどの集団による実際の生活や体験活動を通して、よりよい生活や人間関係を築く力、自主的、実践的な態度、望ましい集団活動の方法などを身に付けていく教育活動と言えます。こうした「なすことによって学ぶ」という指導原理を持つ特別活動においては、一朝一夕に成果を上げることは望めません。大切なことは、全教職員が特別活動で育てたい資質や能力、指導方法等について共通理解を図り、試行錯誤を繰り返しながらも共通指導を重ねていくことです。そのために特別活動では、学習指導要領において小・中・高等学校を通してほぼ同じ目標と内容を設定し、児童生徒の発達の段階に応じ、繰り返し実践することとしているのです。

特別活動の標準授業時数としては、学級活動・ホームルーム活動だけに 35(34) 時間を示していますが、児童会･生徒会活動やクラブ活動、学校行事については時間数を示していません。これらについては、学習指導要領や解説に基づき、学校や地域、児童生徒の実態等を踏まえ、各学校において、それぞれの目標の実現のために必要な授業時数を適切に配当することができるようにしているからです。

今回の学習指導要領の改訂において、標準総授業時数が増加したことに伴い、児童会・生徒会活動やクラブ活動、学校行事の授業時数の確保が困難になっている面があります。そのため、ともするとこれらの時間を安易に削減しようとする傾向も見受けられます。しかし、児童生徒にみられる諸課題の改善を図り、将来、自立した社会人を育てるためにも、生徒指導の一層の充実が求められていることから、生徒指導と関連の深い特別活動の果たす役割の重要性を認識することが、これまで以上に求められていると言えます。

こうした中、これからの特別活動を展開するに当たっては、次のような点に特に留意し、生徒指導の一層の充実を図ることが大切です。

・全教職員の共通理解のもと、生徒指導を行う際に強調される三つのポイント（「自己存在感」「共感的な人間関係」「自己決定」）の充実を図る
・体験活動の実施においては、ねらいを明確にするとともに事前・事後の指導の充実を図る
・入学から卒業までを見据え、重なりのある児童会・生徒会活動や学校行事の関連付けや精選を図るとともに、各活動・学校行事の目標の実現を図るために必要な授業時数を確保する

など

児童会・生徒会活動やクラブ活動、学校行事の授業時数の安易な削減は、生徒指導にとって最も重要な教育活動の場を減らしかねないことに十分留意して、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」の育成を図る必要があります。

★当センターで作成した調査研究報告書等一覧：http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/3.htm

文部科学省
国立教育政策研究所
National Institute for Educational Policy Research

編集　生徒指導・進路指導研究センター
ＴＥＬ 03-6733-6880
ＦＡＸ 03-6733-6967
初版発行　平成 24 年 6 月
部分改訂　平成 27 年 3 月